※疾患名は下線、過去問（H19.20.21.22）で頻出な部分は**太文字**で表しました。

※教科書やレジュメを見ればわかるようなことは省きました

小児看護（医学編）

*出てたとこだけ！呼吸器疾患、川崎病、膠原病*

○上気道の疾患

先天性喘鳴

ピエール‐ロバン症候群

喉頭炎

　**クループ**：犬吠様咳嗽、嗄声、吸気性喘鳴。**ウィルス**感染によるものが大部分。

咽頭扁桃肥大、口蓋扁桃肥大（アデノイド）

○下気道の疾患

喘息様気管支炎

細気管支炎

気胸

　**胸膜内**に空気が貯留

小児気管支喘息

○川崎病

**乳幼児**に多い、**原因不明**、全身の血管炎

1. 5日以上続く発熱
2. 急性期の硬性浮腫・手掌紅斑、回復期に指先からの膜様落屑
3. 発疹
4. 眼球結膜の**充血**
5. 口唇の発赤、亀裂、出血、イチゴ舌
6. 頸部リンパ節の腫脹（非化膿性）

治療：急性期にアスピリン・ガンマグロブリン大量療法

合併症：**冠動脈瘤**など

○膠原病

略。

小児看護（医学編）

*出てたとこだけ！感染症*

・新生児や乳児では体表面での防御機構を担う皮膚（IgAによる局所免疫）が弱い

・新生児期、乳児期および幼児期早期にはIgGの産生能力が弱い。母親からの受動免疫が消失する**生後3－6か月頃～1歳6か月頃**まで感染症は多発する

麻疹と風疹の違いは必ず出る

○ウィルス感染症

麻疹（はしか）

　**高熱、粘膜症状、カタル、コプリック斑**

**空気感染**

**接触早期であればガンマグロブリンの筋注**で予防可能

風疹

　**耳後部リンパ腺**が腫脹する

　妊娠初期の感染で胎児が先天性風疹症候群になる可能性がある。

水痘

**空気感染**もする

治療：抗ウィルス薬（**アシクロビル**）

**アスピリン投与禁忌**

単純ヘルペス感染症

突発性発疹症

　発熱→発疹

夏風邪

手足口病・ヘルパンギーナ

・咽頭結膜炎

伝染性紅斑（りんご病）

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

手足口病

　コクサッキーウィルスA16などによる

ヘルパンギーナ

　コクサッキーA群ウィルスによる

咽頭結膜炎（プール熱）

　アデノウィルスによる

インフルエンザ

**アスピリン投与禁忌**

○細菌感染症

百日咳

　白血球（**リンパ球**）が増加

　**レプリーゼ**：笛声喘鳴・激しい咳

　**乳児では無呼吸発作**

　予防：三種混合ワクチン

治療：**マクロライド・テトラサイクリン系**の抗生物質

結核

　BCG：乳児結核を防ぐ

ブドウ球菌感染症

　メチシリン耐性ブドウ球菌（**MRSA）**にはバイコマイシンが有効

溶連菌感染症

　治療：**ペニシリン系**抗生物質

　後遺症：**急性糸球体腎炎、リウマチ熱**

O-157（腸管出血性大腸菌の一種）による胃腸炎

合併：**溶血性尿毒症症候群**、脳炎

小児看護（医学編）

*出てたとこだけ！小児外科（心臓・大動脈以外）*

横隔膜ヘルニア

　**左**が多い

食道閉鎖

　Gross分類**C**型が一番多い

　泡沫状嘔吐、哺乳時のむせ

　胸部レントゲンで**コイルアップサイン**

肥厚性幽門狭窄症

　**生後3週**頃のみ、急に発生する吐乳

先天性十二指腸閉鎖症

　ダブルバブルサイン

腸回転異常症

　胆汁性嘔吐

　**中腸軸捻転**の症状を呈する。**新生児期**の発症が多い。

腸重積症

　間欠的腹痛、嘔吐、粘血便

　ターゲットサイン

ヒルシュスプルング病

直腸肛門奇形

臍帯ヘルニア

　合併症が多い

　破裂型では、体液・体温管理が重要

鼠径ヘルニア

　1歳以下が多い

　腹圧がかかったときに起こりやすい

　自然治癒は**まれ**で、手術を要することが多い

陰嚢水腫

　自然治癒もみる

胆道閉鎖症

　黄疸、灰白色便、肝腫大

　ビタミン欠乏症

　胆汁うっ滞性**肝硬変、肝不全**

胆道拡張症

奇形腫